

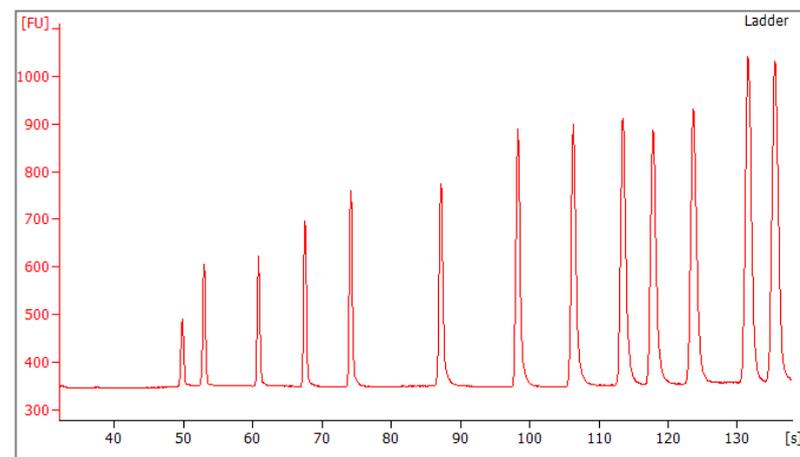
DNA アッセイ UpperMarkerが出ない、 泳動遅延が起きている場合のチェックポイント

ピークの遅れは

- ・ Gel-Dyeミックスの色素濃度・温度・充填圧
- ・ サンプルの緩衝液成分
- ・ 電極

などが主に関連します。次ページからの
チェックポイントをご確認ください。

- Check1. 室温について
- Check2 プライミングステーションについて
- Check3 Gel-Dyeミックスについて
- Check4 サンプルについて
- Check5 アッセイ選択について
- Check6 電極について



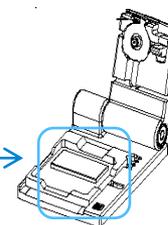
2014/Jan Agilent

Check 1

試薬が室温（23℃以上推奨）になっていることを確認ください。
試薬が冷たいとgelの粘性が高いため チップに適切な圧力で充填されません。

室温が低い場合や、試薬が室温に上がりにくい場合、 下記お試しください。

- ・ ヒードブロック（もしくは恒温槽）を25℃に設定します
- ・ gel-dye,Marker,Ladder を上記にいれ、
アルミホイルなどで遮光し15-30分おきます。
 - ・ プライミングステーションの台座が冷たい場合 チップ調整の直前に
手で台座部分を温めてください
- ・ 取り出した後、すぐにラボチップ調製を始めてください。



Check 2 プライミングステーションについてのチェックポイント

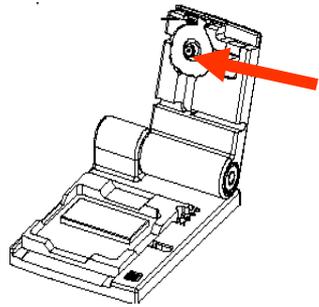
Point1.
シリンジがメタルクリップにきっちり嵌っていることを確認ください。

良い例

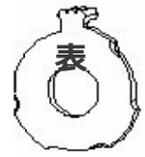


クリップとシリンジの間に隙間が開いている悪い例

Point2.
加圧部に汚れがあったり、詰まりがないか確認ください



補足：マウンティングリングには裏表があります。逆向きに取り付けないようご注意ください。

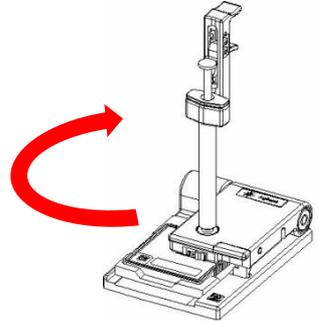


Point3.
チッププライミングステーションのストッパー位置（上・中・下段）がずれていないか確認くださいストッパー位置はキットごとに違います。

最上段DNA7500,12000,RNA
中段； Protein
最下段； DNA1000,DNA High Sens,
SmallRNA;

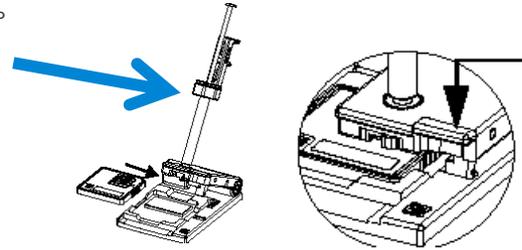


Point4.
シリンジと台座を時計回りの方向でゆるみがない様にしっかりまわして入れてください。



Point5.
チッププライミングステーションの充填時間はキットごとに異なります。プロトコルを確認ください。

Point6.
チップを置いて蓋を閉める前に、シリンジが1mLまで上がっていることを確認し、蓋を閉めた際に「カチッ」という音がするまでしめてください。



Check 3

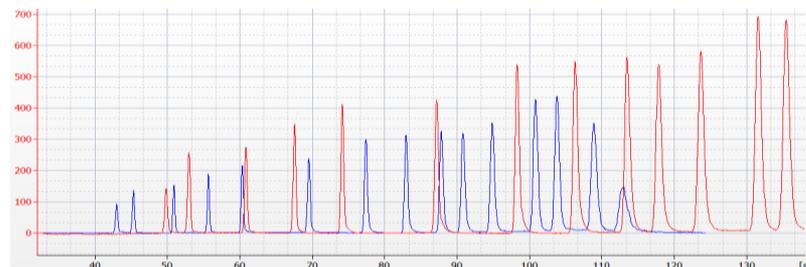
Gel-dyeミックスについての注意

Point1.

Gel-Dyeミックス色素量は各キットごとに異なります。
多く入れすぎないようにご注意ください。

例 ; HighSensitivity DNA kitにて色素量が多く入った場合

- プロトコルどおりの色素添加量
- プロトコルではなく色素を25uL添加



Point2.

複数の種類のキットをご使用の場合、
別のキットのゲルがボックスに混じっていないか確認ください。

Point3.

Gelと色素を混合後、スピンドフィルターで遠心する設定はキットごとに異なります。
プロトコルの遠心条件に設定ください。

Check4; サンプルについての注意

Point1.

サンプルにGenomic DNAなどの高分子が入っている場合、希釈してください
高分子DNAが高濃度でサンプルに混入していると、流路が詰り適切な電流が流れません。

Point2.

磁気ビーズで精製したサンプルの場合

磁気ビーズがサンプル中に残っているとピークが遅れたり、
ノイズピークの発生要因となり、正確な電気泳動の妨げになります。

- ・ サンプルチューブを磁気スタンドに置き数分待っていただく
- ・ 磁気スタンドに置いたまま、上澄を 1 uLとり、バイオアナライザで分析する

Point3.

サンプル緩衝液

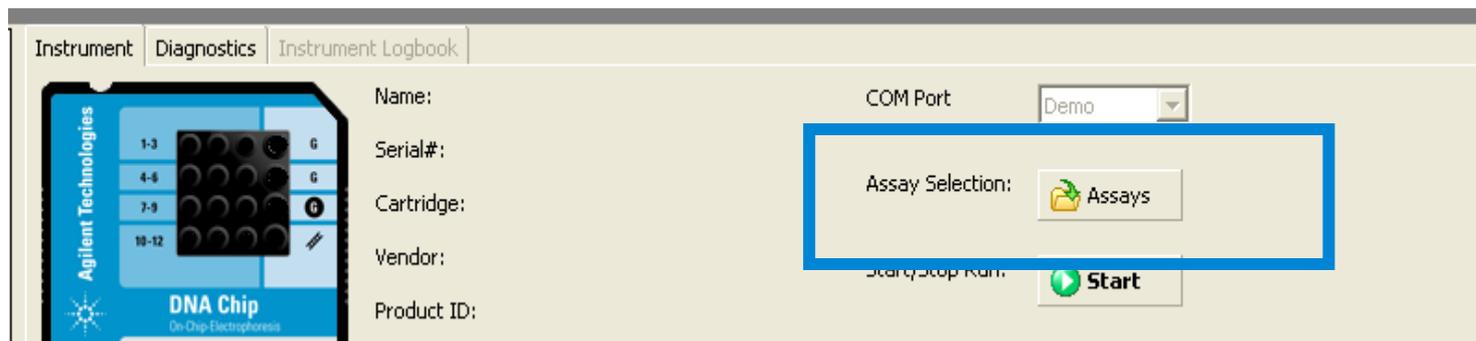
塩濃度が各キットのスペック濃度を超える場合、希釈してから分析ください

Point4.

サンプル濃度が各キットのスペック濃度を超える場合、希釈してから分析ください

Check5 アッセイ名についての注意

スタート前に正しいアッセイファイルが選択されていることを確認ください



Check6 電極についての注意

